

平成22年度 第1回道央ブロック協議会 研修会

これからの地域実践活動～建築士の可能性～

日 時：平成22年4月17日（土）
13:00～16:30

会 場：大通公園ビル（ヤクルトビル）

参加者：33名

これからの地域実践活動 ～建築士の可能性～

□全体概要

これからの地域実践活動を考えていくために、もう一度、建築士会活動の原点に立ち戻り、ディスカッション及びワークショップを行いました。

第1部は、各支部の活動内容及び問題点・課題点を各支部代表者が発表し、それに対する解決策を参加者のみんなが意見を発言し、ディスカッションを重ねました。

第2部は、最近ニュース等で話題となっている札幌オドオリ大学の猪熊学長と服部事務局長にファシリテーターを務めていただき、ワールドカフェ方式によるワークショップを行いました。話し合う内容“世の中で、再び「モノ」を作り始めた生活者を通じて、明日へのヒントを考えてみてください”の1点のみ。この問いかけによる話し合いを、4人程度の小グループ単位で、席替えしながら3ラウンド話し合い、それぞれのテーブルの模造紙にその話し合った内容を参加者全員で書き込みました。最後にワークショップを振り返り、参加者全員が輪となって座り、各自30秒ずつ感想を述べて終了しました。

第1部 ディスカッション



第2部 ワークショップ



ワークショップ振り返り





第1部 ディスカッション 支部活動内容

“各支部では、どのような活動をしていますか？”

地域貢献系

- ・雪あかりの路（小樽）
- ・地元の夏まつりに参加（滝川）
- ・ランタンフェスティバル（滝川）
- ・烈夏七夕まつり（旭川）
- ・ウインターサーカスコンテスト（旭川）

- ・ちびっ子建築士コンクール（滝川）
- ・マッチ棒の家づくり（千歳）
- ・子供たちに木のおもちゃを製作（小樽）
- ・バードハウス製作（岩内）

- ・町内会のゴミステーション提案（札幌）
- ・植樹（旭川）

スキルアップ系

- ・士会会員への情報発信（札幌）
- ・太陽光発電などの勉強会（小樽）
- ・研修会（滝川）
- ・施設見学会（恵庭）
- ・会報誌作成（旭川）

仲間づくり・PR系

- ・若手建築士の交流会（札幌）
- ・ビールパーティー
（札幌・旭川・小樽・滝川）

- ・親睦会（千歳）
- ・キャンプ（千歳）

第1部 ディスカッション

支部の問題点とその解決策

“各支部が抱えている問題点は
何ですか？ また、その問題点の解決
策をみなさんで考えてみましょう”



問題点

- ・若手や女性が少ない（岩内・千歳・恵庭）
- ・活動が固定メンバー（千歳・恵庭）

- ・地元での知名度が低い（岩内）

- ・次の地域実践活動をどうするか（札幌）
- ・団結力の持続（小樽）
- ・活動事業が多く、意見集約が難しい（滝川）

解決策

- ・役員になると参加しやすい
- ・非会員建築士の把握
- ・会社でのキーパーソンがPR
- ・会社の理解、バックアップ
- ・仕事に結びつく事業
- ・仕事へのつながり、シェア

- ・士会のメリット、存在意義PR
- ・最新情報の共有
- ・横のつながり
- ・他支部との交流、参加（ツアー）

- ・地域との交流促進
- ・地元行事に参加PR
- ・地域住民の生活に直結する活動
- ・「士会のおかげで便利になった」と言われるような活動

コーディネーター（札幌支部 重永副委員長）より

札幌オオドオリ大学の猪熊学長、服部事務局長からの下記意見を明日へのヒントにしていきましょう！

○会員同士の単なる親睦活動だけでは会員数増強とはならない

○地域にもっと入り、建築士が身近な存在になるように

○横のつながりを持つことによる情報共有や勉強会・地域活動参加

による自己スキルアップなど、士会のメリットを全面に出してPRを

○何をするか（手段）ではなく、何が求められているか（目的）を意識する

○青年から積極的に情報発信する



第2部 ワークショップ ワールドカフェ

“世の中で、再び「モノ」を作り始めた生活者を通じて、明日へのヒントを考えてみてください”

宅のみ→スキノがすたれる 建築はモノではない! 昔の作る、今の作る
 コミュニティー、異業種交流→明日へのヒント 人の話を聞くこと 住みながら作り続ける 価値観がちがう メリット作る→アピール モノ=家→教育が必要 都市部と地方 木造で9階建?
 質の時代→量の時代→再び質の時代 エコ・DIY・環境 機をつながり なぜ再び作る?→作る過程を楽しむ 政治家が使う建物設計したい! 家を「買う」→「建てる」
 交流の場が必要 過去の価値観との違い(生産・消費) 男性諦はつまらない 女性諦は楽しい?(生活諦)
住宅も自分でつくる?教える人が必要 施主も造り手 昔は作るしかなかった→モノを買う→再びモノを作る(作る喜び) 良いものは残る
 個人→町内会 再び→戻る モノ→家に置換 施主にも知ってもら 形にならないもの
 本物を求める人が多い 太陽光発電 古いものを知って、新しいものを作る カホンを作った! カスピ海ヨーグルト 木造を再び 生きてるって何だろう?
 エコビレッジ 人づくり 再構築 何が正しい(情報多過ぎ) 未来へつなげる 植樹 達成感がポイント 使う側の立場・固定観念を捨てる
 道央のHP 温故知新 総合学習(衣食住) 伝えるのって難しい 北海道って何? 「愛」 虎材→商品へ モノ→建築 生活者→居住者 「家庭菜園」「DIY」「リサイクル」「ECO」
 建築のことしか話せない・・・子づくり!子育て! 再び→見直し? 目標→作る→喜び→更なる目標というサイクル 情報過多→情報の整理・理解
 車=家→モノ→人が作るもの→クレームがなくなる 仕事に集中するとモノを作らない 「家」→住人が手を掛ける 古民家→ECOのかたまり 生産と消費のバランス
 再び作りたい 作り手がいない 近所のつながり 創作意欲って? 北海道ブランド みんな「モノ」つくってますか? DIYの要素を残した家
 ハーブ 情報網の進化 新聞→インターネット→ツイッター 自分たちで何かを作ってみたり、育ててみたりする→エコ モノ→物ではない? 昔のものを見直す
 北海道の名物→素材が良い→付加価値 食べ物を作るのっていいな~ 本だな!つくったあーい 利用者で何かを作ってみたり、育ててみたりする→エコ モノ→物ではない? 昔のものを見直す
目に見える「モノ」でなくても・・・ 不特定多数が利用する建物やだ!住宅のようなものがない 利用者の顔見えるから・・・ 時代生産者 家づくりの相談所が必要 まだ使える廃材を、お金をかけて処分している
 「モノ」作りにもニーズが必要 再び→よみがえらせる? 地域の素材を使う 栗山ECOビレッジ コスト下げる→規格化 不況→エココンポスト 買→量→質
 モノづくりが目標 子どもがキーポイント→建築を教える(住育)→将来の建築士の担い手 家、買ったほうが安い→再び作る(エコ)→建築士としての仕事が発生
 豆太の豆腐 建築は「施主・設計・施工・いろんな人」みんなで作る 愛着をもつ 家づくりに施主も参加

ファシリテーター(札幌オオドリ大学)より
 節約から始まった弁当づくりで料理を作る楽しさにはまった人がいます。おいしい野菜が食べたくて自家栽培を始めた人がいます。消費者ではなく共同者として生活者とのコラボレーションを模索している企業があります。もう一度、自分が一方的な消費者ではなく、作ることに関わることで、新しい喜びを手に入れることができるのではないのでしょうか。そこには創造する喜びがあります。自らが作ったものを人に手渡したり、伝えたりする喜びがあります。それに気づいた人々がこれからの社会をどう変えていくのでしょうか。建築士会の皆様がこういう形でいろいろな社会に関わっていただけるのではないだろうかと考えて、お題を作りました。



第2部 ワークショップ 振り返り

“今日のワークショップを振り返り、
あなたが感じたことは何ですか”

○あっという間に時間が過ぎた。いろいろな人と話ができ刺激になりました。

○パワーを使った研修会だった。人に伝える難しさを改めて感じた。育てる・価値観・循環というキーワードを自分自身への明日へのヒントとしたいと思う。

○直接建築とつながらないお題でお話するのが難しく感じた。どうしても建築につなげてしまう自分がある。ものづくり、建築というのは、全員がつくり手だということを伝えていきたいと思う。

○お酒の席以外で、これだけ多く、他の支部の人と話をできたのは初めて。自分の思いを伝えるのは難しかったが楽しかった。今後の支部活動に取り入れていきたい。

○自分の思い描いたこととまったく違うことを発想できる人がこんなにいるのかと感心した。支部では発想が似てきたので、今後はブロック協議会への参加をみんなに促したい。

○ワールドカフェは五感に訴える、食べたり飲んだりしながら、見て聞いて書いて、というのがすばらしかった。

○支部に帰って、仲間たちに今日のことを伝えたい。

○お題が建築士会内では思いつかないような、いろいろな発言が出てくるものであった。また、ひとつのテーブルだけで話し合うのではなく、他のテーブルに渡り歩いたことで多くの人と話し合えたことができて良かった。

○今までのワークショップは模造紙を埋めるのにプレッシャーがかかった。今日はラフに進められたが、最後には模造紙が埋まっていた。いろいろな人と話もできたので、画期的だった。

○一生懸命説明しなければならぬし、一生懸命聞かなければならぬので、すごく集中したのでつかれた。でも楽しかった。

○ワールドカフェはリラックスした状態で、真剣に課題を語り合えるということで、柔軟で良い発想が出ていて自分の中の価値観も再認識して、みんなの意見を聞いて、自分の価値観を再構築できたので、すごくためになった。

○“世の中で、再び「モノ」を作り始めた生活者を通じて、明日へのヒントを考えてみてください” 悩ませ心をくすぐるお題だった。ワールドカフェ方式は楽しいので、子ども会などで活用してみたい。

ファシリテーター（札幌オオドリ大学）より

○みなさんの笑顔がたくさん見ることができたのが良かった。これを自分の街に持ち帰って、笑顔が出るような活動ができれば、それが自然に地域貢献に繋がると思う。素直に生きること、素直に怒ってくれる大人、きっとそういうことがまちづくりというものなのかな・・・。

○いろいろな立場の方が参加しながら、緩やかに話しができる「場」をつくるということは可能であると思います。地域に帰ったときに他業種を含めたいろいろな方を通じて、自分たちだけで考えるのではなく、いろいろな人を巻き込みながら、どういふうにやっていけるかということを話し合っていけるなら、それがおのずと最終的に地域貢献につながっていくと思います。地域貢献を行うためではなく、街の中でいろいろな人の笑顔を見るために、活動することが大切なのではないでしょうか。